

ドクターヘリ 出動5千件超

一刻争う救急医療支え

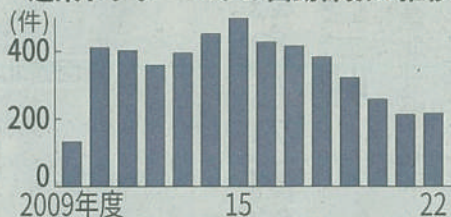
釧路、根室の両管内を中心に道東地域をカバーしている「道東ドクターヘリ」が、運航開始から15年になるのを前に、出動件数が5千件を超えた。釧路市内の市立釧路総合病院と釧路孝仁会記念病院が連携し、救急医療を支えている。

釧路市内2病院連携し今年で15年

道東ドクターヘリは2009年10月に、釧路管内で運航開始。12年にオホーツク管内の一部、15年には十勝管内の一部にエリアを拡大した。交通事故などで消防が出動を要請する場合や、医療機関から他の医療機関に患者を搬送する場合などに、対応している。

ヘリの運航は市立釧路総合病院が基地病院、孝仁会記念病院が基幹連携病院として、2院が協力している。週5日は市立病院、週2日は釧路孝仁会記念病院で待

道東ドクターヘリの出動件数の推移



(注)2009年度のみ10~3月

機。霧や上昇気流の影響で市立病院から飛べない場合は、孝仁会記念病院から飛

釧路孝仁会記念病院の齋藤理事長に聞く

官民一体運営現場に定着

釧路孝仁会記念病院は基幹連携病院として、道東ドクターヘリの運航開始当初から支えてきた。導入を推進した社会医療法人孝仁会の齋藤孝次理事長に、思いを聞いた。

(聞き手・田鍋里奈)

道東ドクターヘリは官民一体で運営する全国でも珍しい方式で、地域医療に貢献してきました。医師会の全面協力もあり、取り組むことができている。

私は脳神経外科が専門です。治療は時間との闘いです。釧路地域は広く、最先端の治療法でも患者を救うのが難しい時があります。

ぶなど、状況に応じて柔軟に運用している。

数字がまとまっている22年度の出動は216件。23年度は今年1月末時点で202件で、運航開始から計5084件となった。出動件数は16年度以降、減少傾向だ。ドクターヘリ事務局の市立病院総務課は減少の要因について「ヘリを要請するか否か、現場の判断力

が熟練されてきた」とする。市立病院では症例検討会を年数回開き、具体的な事例を基に迅速に対応できたかなど、検証を重ねている。

市立病院の森田研院長は「高齢化が進む中、一刻を争う治療を求められる場合も多い。今後も安全運航しながら、地域医療を支えていきたい」と話している。

(田鍋里奈)

状況を変えられるのがドクターヘリでした。例えば脳梗塞の患者が1秒でも早く治療を受けられれば、障害が少なく済む場合もあります。10万筆の署名を集め、道と国に働きかけました。

導入から15年近くたち、医療現場で定着してきたと感じます。昨年11月には日

本航空医療学会の総会が釧路市で開かれ、私が会長を務めました。市と市立病院にも全面協力してもらい、全国で取り組む医師ら、関係者と情報共有できました。

ドクターヘリは現在、道内4機体制ですが、全道をカバーできていません。今後、増えたいけば良いと思います。また、ヘリでは大型機材が必要な患者は運べ



ドクターヘリへの思いを語る齋藤理事長